

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 27 年 12 月 18 日 第 5 巻 (第 8 号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. バトン寄稿 — Part 6
2. 活動報告
3. 他団体紹介
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 災害支援ニュース発行のお知らせ
6. 石巻現地職員募集のお知らせ
7. あとがき

「平成 28 年度 石巻現地職員」 **募集中！！**

詳細は“6. 石巻現地職員募集のお知らせ”をご参照ください。

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ」 **発売中！！**

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」 **発売中！！**

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ」 **発売中！！**

詳細は“4. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。

1. バトン寄稿 — Part 6

~~~~ ~~~~ ~~~~  
当協会の東日本大震災での支援活動は、5年目を迎えました。それぞれの時期に当協会の会員であった方々が責任者や担当として、現地にて協力員と共に支援のバトンを紡いでくれました。

~~~~ ~~~~ ~~~~  
今回は6人目の松川に振り返ってもらいました。

.....
日本医療社会福祉協会 災害支援チーム
石巻事務所職員
松川 夏実
(2014年5月1日から 現職)



2011年3月11日 卒業を間近に控え、仙台で過ごしていた私を、今まで経験した事のない揺れが襲った。あまりの揺れに何が起きているのか分からず、パニックになりながら建物から飛び出し、揺れがおさまるのを待った。余震のたびに悲鳴が聞こえ、ヘリや自衛隊の飛行機が飛び交い、そして雪が降り始め…あの時の情景を今も覚えている。

地元で医療ソーシャルワーカーとして勤務し、4年目の春にご縁があり、石巻に行くことになった。さまざまな想いや不安はあったが、“住民”としてこの地に来る覚悟を決めたとき、自然と“ここで生きていく医療ソーシャルワーカーとして、きちんとこの地で起きたことに向き合いたい”と思えた。以前からチームの活動に関心があったため、現地職員に応募し、2014年5月から活動に参加している。

現地職員になってすぐ、健康調査のフォロー訪問を行った。初めてお会いする方から、

健康状態や生活のしづらさなどを伺い、今後の継続的支援の必要性について検討した。初めての訪問にも関わらず、丁寧に答えて下さる方がほとんどで、知らない土地で緊張していた私も、徐々に慣れていくのを感じた。

現地職員になってからの1年半は、仮設住宅から復興公営住宅への移行が大きく進んだ時期である。活動する中で、今後の行き先について確認することが当たり前になっていた。それだけ、“移行”というものがクライアントの生活に大きく影響している。場所ありきではなく、クライアントの生活が中心であるとわかっていながらも、復興公営住宅の選択肢は決まっておき、その中でどのように折り合いをつけて、その人らしく生活できるか…。家族関係や経済面、疾患や障害等を含め、クライアントの生活に寄り添う、ソーシャルワーカーらしい活動をしていると感じる日々である。

これから現地がどのように変わっていく

のか、今回の震災をどのように生かしていけるのか…震災をきっかけにこの地における関心や期待は大きくなり、また月日と共にそれが薄れているのを感じる。たとえば、関心が

薄れても、住民の生活は変わらずあり続ける。この地に来ると決心した時の想いをもちながら、私もこの地でソーシャルワーカーとして変わらずにあり続けていきたい。

2. 活動報告

日本医療社会福祉協会 国際委員長

小原 真知子



当協会の災害支援活動の現場に 2015 年 8 月 25 日から 2 泊 3 日の短い期間でしたが訪問することができました。今回の災害支援活動に参加した目的は、10 月にタイで開催されたアジア太平洋ソーシャルワーク会議の「人の尊厳と価値の促進」(Promoting the dignity and worth of peoples) のセッションで当協会の災害活動の取り組みをグッドプラクティス例の一つとして取り上げ、日本の実践報告としてまとめるためでした。

石巻には短い滞在でしたが、災害チームの活動はまさに、ソーシャルワークの根幹をなす「人の尊厳と価値の促進」に値するものだと確信しました。十分ではない環境である仮設住宅で今も生活されている方々の「生きる」を支えていくことは並大抵なことではありません。親しい方を亡くして、今なお喪失の渦中にある方々、先が見えない不安と焦り、社会から取り残されていく孤独感を抱えて生活をされている方々の苦悩は想像していた以上でした。また、仮設から恒久住宅に移行

する中で、やっと慣れてきた地域や近隣の方々や友人との離別が新たな喪失を生み出し、次のステップに歩み出すのに躊躇や不安を抱える方々が多くいらっしゃることを実感しました。



これに対して、現在、災害支援チームは、石巻地域で仮設住宅から復興公営住宅への移行の際に生じる課題に対して、専門的な支援を行っています。その支援対象となる利用者は高齢者単身、障害者、母子世帯など多岐にわたり、また生活再建に関する課題も様々です。そのような利用者にはソーシャルワーカーが時間をかけて話を聞き、状況を確認し、一緒に考えていき、必要なサービスや制度活用につなげられるように、わかりやすく丁寧に説明をしていました。2 日間の同行訪問の中で、ソーシャルワーカーとしてあるべき姿を見せられた気がしました。一人一人のこれまでの人生に敬意を払い、その人のペースを乱さず、歩調を合わせて、じっくり

丁寧に援助をしている姿勢に日本のソーシャルワークの明るい未来を見た気がします。

2 日目には地域の社会福祉協議会が主催する災害支援の会議にも参加させていただきました。地域の看護師、保健師、精神保健福祉士、地域生活支援員などが参集され、ケース検討がなされていました。当協会の災害支援チームがよそ者ではなく、支援仲間として受け入れられ、地域の中でソーシャルワークの“専門家”として、期待されていることや、実際に地域復興支援の中核的役割を果たしていました。



当協会の活動は、在宅被災者のミクロ的支援にとどまらず、誰もが安心して暮らせる地域作りに非常に貢献していると思います。先の国際会議で I F S W 会長の Ruth Stark 氏は当協会の取り組みに対して、ソーシャルワークの尊厳と価値につながる素晴らしい実践事例と称賛していました。ご周知のとおり、この取り組みは今後 2 年間継続して活動することになりました。一人でも多くの方々が安全、安心、安定した暮らしを取り戻すために、多くの会員の方々の支援が今後も必要になります。これからも災害支援チームを応援してくださることを期待しています。



総合南東北病院（宮城県）

菊池 知憲

活動期間 2015/10/21



当日は過ごしやすい天候であった。今回の男の遊ぼう会の活動場所である石巻市の浜に向かう前に、新しく完成した復興公営住宅

に入居した A さんを迎えに行く際に、自宅の中をみせていただいた。2LDK のフローリングの住宅で非常に立派な建物であった。

Aさんは目が悪く、電気のボタン等が非常に見づらい、また隣近所が誰が住んでいるかわからないということであった。住宅が再建された後も、孤立、人間関係の希薄さ等の問題が一層浮き彫りになることを理解した。浜に移動し、アオイソメをえさにはぜ、あいなめなどの魚を釣り上げた。釣り好きにいわせればこの浜はあまり釣れない場所であるそ

うだが、それでもこれだけの魚が釣れるのは石巻の海が非常に豊かな証拠だと改めて認識できた。釣った魚は味噌汁、浜で買ったかきを網で焼き、非常に味わい深いバーベキューとなった。次回は女川町の温泉に行く予定となった。どんどん活動範囲が広がり、多様化してきている。そしてみんな元気だ。



男のあそぼう会はとても賑やかです。秋、冬は石巻の海の食材がおいしくなる時期です。ぜひ、足を運んでみて下さい。

石巻ロイヤル病院（宮城県）

春山 瑞生

活動期間 2015/10/21



今回の活動内容は石巻市内にある岸壁で釣り大会でした。メンバーさんたちのご協力で釣り具や釣り竿を準備していただき、合計11本の竿でネウ（アイナメ）を狙います。準備段階から皆さん目をきらきらと輝かせて子供に戻ったような印象でした。いざ竿を下ろすと、黙々と糸の先や穂先・握る手に集中されておりました。釣れた方がいるとみんな声掛け合い、一人一人、そして一丸と

なって今回の活動を楽しまれているようでした。

またここではメンバーさん達は支援員・協力員に指導者です。私たち協力員の分まで竿や仕掛けを用意していただきました。また私が生き餌に苦戦をしていると「男のくせにつかめないのかー（笑）」など、まるで娘・息子に海釣りを教えるお父さんのような表情で手取り足取り教えてくれました。

釣果はネウ・ドンコ・スズキの子供合わせて10匹以上、昼食には十分な釣果でした。ドンコは味噌汁にし、アイナメとスズキは炭火で焼きました。地元で採れた焼き牡蠣と私たちが朝用意したおむすびを合わせて火を囲みながらメンバーさんたちはワイワイと

食べました。一人一人の表情・お話。グループとしての輪が形成されていく過程。協力員として一人のMSWとして、そして人間として聴ける・見られることがとても楽しいと感じる時間でした。



石巻の現状や地域・歴史について、活動する中でメンバーさんのお話から知ることが出来ます。またメンバーさん達の生活課題をどのように解決していくかについて考える機会がありとても勉強になります。

3. 他団体紹介

.....

ユースサポートカレッジ 石巻NOTE



石巻NOTEは、高校生・大学生を中心に、16歳から39歳までの若者で、こころに不調を感じている方、こころの病で休学中の方などへ、さまざまなサポートをおこなってられます。

未来ある若者が、将来に希望を持って、この地域で安心して生活していくことができるようになる事を目的に「学ぶ・働く」という観点から、多様性を認め合う社会へ向けさまざまな提言をしていき、社会へ発信していきたいと活動を続けられています。

石巻NOTEが実施しているプログラムを一部紹介します。



現在、1日にあたり上限2から3名で募集しております。

現地までの旅費・交通費は自己負担をお願い致します。

活動日程につきましては下記のようにお願い致します。

期 間： 平日3日以上、

受入日： 期間を満たす曜日 (土、日、祝日は活動致しません。)

但し、**上記以外であれば支援活動が可能な場合は現地担当までご相談ください。**

※ 出発2日前までには(到着時刻等を含めて)は必ず現地担当にご連絡ください。

今後、活動に参加される方でその年度初回参加時には、簡単な資料を郵送致します。

ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

事 務 所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1～2ヶ月に1回でも構いません。

ご協力お願い致します。

【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

1月27日(水) 19:00～21:00 於：協会会議室

【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯



支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、
2013年1月から2014年3月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、
現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

バトンⅢ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

【4. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非



ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

.....

次回発行予定 1 月中旬予定

6. 石巻現地職員募集のお知らせ

.....

平成 28 年度の石巻現地職員を募集しております。

詳細は下記にてご確認ください。

職員募集：URL: http://www.jaswhs.or.jp/guide/info_detail.php?@DB_ID@=297

7. あとがき

.....

災害支援チーム事務局から

編集担当 西田知佳子

11月に入って間もない日、石巻担当のソーシャルワーカー畑中とロイヤル病院を訪問しました。男のあそぼう会を手伝ってくださる春山ソーシャルワーカーの勤務する、石巻の駅からは少し離れ、田園の中にある一般床とリハビリ、療養型を併せ持つ中規模の病院です。石橋院長先生と津留副院長先生に2011年4月からの日本協会の石巻支援について説明し、バトンを3冊お渡ししました。そしてここ2年近い男のあそぼう会についてもお話して写真集をお見せしましたら、「そういう地域活動こそ大切なことだ」とおっしゃって興味深くご覧くださいました。院長先生はソーシャルワーカーは男性が多いとお思いになっていたようで、一般的には女性が多いとお伝えするとびっくりなさっておられました。「ロイヤル病院

のソーシャルワーカーは男のあそぼう会にとって貴重な存在です」と強調してきました。石巻の他の病院の院長先生にもバトンを直接お渡ししたいと思いました。辞して駐車場に行く途中で白鳥が一羽じっと何かを訴えるように我々を見つめていました。



東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 27 年 12 月 18 日第 5 巻 (第 8 号)
作成 日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局